

令和3年5月31日

学校法人三幸学園
名古屋ビューティーアート専門学校
校長 古渕 泰弘 殿

学校関係者評価委員会
委員長 小栗 慎司

学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小栗 慎司 (株式会社 shin 代表取締役)
- ② 酒元 春菜 (第9期卒業生)
- ③ 中村 立歩 (第16期卒業生)
- ④ 水澤 順一 (飛鳥未来きずな高等学校 名古屋キャンパス キャンパス長)
- ⑤ 國島 徳博 (株式会社インテンド 代表取締役)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年5月31日 (会場 名古屋ビューティーアート専門学校 4階教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和2年度 学校法人 三幸学園 名古屋ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 和田 忍

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小栗 慎司

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化出来る(みんなをハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

1. 主体性を育む教育(心の教育強化)・社会人育成の強化

→マナー・ルール・モラルの違いを理解させ、そして誰からも愛される人材となるため、まずは教職員の意識から変えていく(生徒・子供扱いしすぎないこと、承認すること)に注力。結果、意欲も高く主体的に取り組む生徒の様子があった。

2. 就職支援(在学・卒業後)、退学率の低減・資格検定の合格率向上

→情報伝達の担任格差をなくすため、資料提示の統一と工夫を行う。

→長期欠席者等へは多くの大人(教職員)が関わっていくスタンスによる退学率低減に向けた取り組みを行い、結果が出せた。

→高い合格率を維持する為、検定対策 WEEK の実施や時間確保の工夫を行い、これまで以上の合格率へと結びつけられた。

3. 掃除・挨拶の徹底(基本的生活習慣)

→教職員や生徒含め、清掃・挨拶を実施する意味・目的を確認し、教職員は自ら率先して実施。環境は与えられるもの以外に皆で創っていくものという雰囲気・風土を浸透させる発信をし続けた。

② 学校関係者評価委員会コメント

小栗委員：息子が入学しているが、主体性を育む教育(心の教育)がしっかり行われていることを身近で感じる。

また、友人の話聞くが、前向きな意識変化があり、学校・クラスの風土がそうさせているとも感じる。

酒元委員：卒業生として「未来デザインプログラム」の内容は生徒に良い影響を与えていると感じる。ネット社会になり悪い発言が多い中、学校にてプラスの言葉を発する場があるのは良いことである。

中村委員：ネット社会の影響からか、発言に対して気になる人が増えた。発言する際の言葉の選択が重要ではないかと感じる面もある。また、就職・資格等結果が出ていることは素晴らしいと感じる。

國島委員：以前に比べると大人同様の発言をする生徒が増えたと感じる場面があった。生徒もルールやマナーに敏感になっているため、より一層大人として同等の会話ができる生徒が増えている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

新型コロナウイルス感染症の影響により説明会等中止せざるを得ない状況もあり、保護者（新入生含）へは例年と違ったお伝えの仕方となる。感染対策や実施の仕方を工夫し、対面でのお伝えが学校教育への理解・浸透を図るには必要なことであると感じる。

社会情勢は変化し続けている為、業界のニーズには着目し続け、情報収集に努める。

② 今後の改善方策

校舎内での掲示物や普段の学校生活から言い続けて行くことは勿論、入学前研修（スタートアッププログラム）後の継続した指導・教育を強化し、就職対策・未来デザインプログラムとも連携したい。また、当法人専用に eラーニングシステム（以降 Sanko Gate）も教育理念等の周知に活用していきたい。業界の変化を知るために企業様への訪問の仕方を工夫していきたい。

③ 特記事項

教職員へは定期的に三幸学園のミッション・ビジョンを浸透させる機会を設け、継続的に実施している。また、生徒へは入学前のオリエンテーションや保護者説明会にて新入生及び保護者に提示している。入学後には、全生徒対象の研修（スタートアッププログラム）にて、学校の理念・目的・育成人材像は周知し、そこに向かうべく、個々の目標設定を普段の学校生活で実践できるようにしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

小栗委員：対面・オンライン共にメリット・デメリットはあるが、オンラインにしても伝達内容に差が生じさせないよう、生徒は勿論、保護者に対して何かしら対面で話す機会があると良いと感じる。生徒には普段の学校生活を通じ内容を理解しているのかなど確認する意味でコミュニケーションを図ることは大切であると感じる。

中村委員：入学前研修（スタートアッププログラム）後の継続した指導・教育という面では、習熟度合の確認の為、アウトプットさせる場（自己課題など）も一つの手段として良いと感じる。

当時、Sanko Gate がない時代だったため、情報をネットですぐにわかる利便性がかなり良いと感じる。引き続き適切に活用されることを期待したい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

運営組織・役割が明確化されてはいるが、まだ意思決定までにタイムラグあり、状況によって時間を要することがあるため、適材適所での業務割りや個々の業務バランスを見た割り振りが必要と感じる。また、「良いものになりたい」という熱意より多くを巻き込んだの打合せや意見交換の場も増加し、決定しきれない場面もあると感じる。

② 今後の改善方策

必要であろう担当人数割り、会議・打合せの時間確保も計画的業務が遂行できるよう予め提示することで改善に努めたい。また、組織の成長なくして個人の成長もないという意識も浸透していきたい。

時間確保や適材適所で業務分担割りをするため、授業コマ数や校務分掌の工夫をしていきたい。また、意思決定でき、業務を円滑に遂行できるよう中堅層への研修を進めていきたい。

③ 特記事項

教職員への案内は Sanko Gate にて実施し始めている(タイムリーな情報提供・ペーパーレス化など)。

これまでシステム化されているものとしては出退勤時間の入力、経費精算システムでの申告、給与明細の電子化など挙げられる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

小栗委員：想いがあり、熱意を持って取り組んでいることは御校にとっての強みであり、業務効率の意識が強くなることで熱意が薄れないようにして頂きたい。また、効率を上げるためには役割分担制が重要であると感じる為、工夫をしてみたい。

酒元委員：卒業生としては案内など遅いと戸惑うこともあったため、意思決定等改善され、案内が早期にされることに繋がればとても良いことだと思う。しかし、業務効率が生徒とのやり取りまで効率化されないよう願いたい。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

教員研修・指導力向上研修等を実施しているが、これまで以上に教育活動(質)向上の為、各学科・コースでの研修を実施していく必要がある。また、各学科・コース内での定期的教科会実施内容は学科を跨いで共有をすることも有益であると感じる。

有能な教員採用(確保)には努めていきたいとも考える。

② 今後の改善方策

教員指導力向上研修の場を増やしていきたい。また、教科チーフ間での教科会内容の共有を進めていきたい。活躍している有能な卒業生も多く居る為、卒業生採用を積極的に進めていきたい。

③ 特記事項

各種アンケート結果については定期的な会議にて全教職員へ共有し、今後活かしてもらっている。引き続き、産学連携や地域貢献への取り組みを多く行い実践的な活動を多く行う予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

國島委員：教員研修など引き続き実施し、情報収集に努めて頂きたい。なお、情報という面では、ネイルやその他業界では、試験が定員制になっていることが多く、誰もを受けたいときに受けられる状況ではないと聞く。また業界の検定等に関しても正解がないところが多々あるようにも感じるため、判断に苦しむこともある。よって、情報収集は必要であると感じる。

中村委員：スピード感ある情報共有は時に必要なこともある。良し悪しは学校にて判断頂きたいが、緊急性が高いものは Sanko Gat の他に LINE もうまく活用してはどうか、賛否はあるが提案だけはさせて頂く。母校で教えたいという声も耳にするため、卒業生採用を積極的に進めることは有難いと感じる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

新型コロナウイルス感染症の影響により一部のコースでは求人表や採用枠の減少があった。安定した求人票・採用枠の確保をするために企業様働き掛け(企業理解)や姉妹校間の情報共有を強化することが必要と考える。資格試験合格率の更なる向上と退学率低減の継続は、今後も課題と考える。

② 今後の改善方策

企業訪問等積極的アプローチを進めて行くことと、求人情報を優先的にいただけるよう関係構築に力を入れていきたい。資格試験合格率の更なる向上を目指し、生徒への動機づけ強化(取得に向けて強い意志を持たせる心の醸成)と対策の創意工夫を例年同様に進めていきたい。また、退学者低減も継続させるため、生徒情報の共有は早期に行うようにしていきたい。

③ 特記事項

全国姉妹校との情報共有と合格率向上のために模試を実施している。
同窓会 Link の HP 活用や卒業生支援に取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

國島委員:コロナ禍で学びの変化(メディアを活用した授業等)もありながら、資格取得率や就職率も結果が出せたことは評価できる。今年度も安定して結果が出せるよう努めて頂きたい。なお、業界によっては就職が非常に厳しいと聞く。求人獲得ができるよう企業への働き掛けなど、努力して頂きたい。

中村委員:美容部員は企業様によっては新卒採用ではなく中途採用へ移行していると聞く。企業訪問等積極的アプローチをし、関係性構築に力を入れて頂きたい。

酒元委員:現場の声を積極的に聞き入れ、業界や各企業様がどんな人材を欲しているかを確認することが重要と感じる為、積極的に行って頂きたい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

引き続き、卒業生の就職状況の把握とキャリア支援、中途退学者への支援体制も検討していく必要がある。
また、新型コロナウイルス感染症拡大により、滞っていた同窓会Linkの定期的な配信を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

1階サロンの使用・活用目的を明確にしつつ美容所登録を進めて行き、卒業生等の支援する場となるよう進めて行きたい。また、開催できなかった卒業生支援(学び直し)を進めて行きたい。
学校の中だけが教育の場と考えるのではなく、広い視野に立った包括的な支援を意識・実践。在籍時より卒業生サイト(同窓会Link)があることの告知を強化し、有効活用していきたい。

③ 特記事項

カウンセラーの設置、生徒の希望により定期的に話をすることができる環境がある。
生徒の経済的側面に対する支援体制として、奨学金や各種教育ローンを設けている。
学生の生活環境への支援としては、提携している寮等の案内がある。
高校との連携では、職業紹介のガイダンス等で協力させていただいている。
退学者に対するアンケートを実施、今後の学校運営に役立てている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

小栗委員:コロナ禍で就職が出来なかった卒業生に対し、今もなお、支援し続けていることは素晴らしいことであり、是非希望を叶えられるよう努めて頂きたい。
中村委員:1階サロンの活用や地域貢献の取り組みは在校生や卒業生の学びの場となるため、活用を期待している。また、卒業生支援として学びの場の提供は現場に出た卒業生にとって大変助かると感じる。是非実施頂きたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた環境設定の継続・強化を進める必要がある。
災害を想定した避難訓練の内容の見直しと、教員の避難訓練の内容・頻度も強化する必要がある。

④ 今後の改善方策

引き続き、教職員全員による避難訓練を実施し、実際の導線を体験・確認を行っていきたい。また、万が一の事態に備え非難経路の確保については常日頃から点検を行い、避難経路の清掃に務めたい。ホームルーム等にて生徒へ避難訓練の意義や必要性(案内)を継続したい。

③ 特記事項

企業と連携をし、現場が求めている人物像をキャッチし、インターンシップ前の指導及び終了後の指導・アドバイスなどを実施して、卒業後に現場で活躍できる人材育成を行っている。
防災・安全管理において、非常食・飲料水などの備蓄品や職員室内防災用品を最低限設置している。
AED講習会の実施、防災マニュアルの定期的確認と周知、Wi-Fi環境、防犯カメラは整備をしている。
一斉情報伝達の為のデジタルサイネージの活用を強化する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

水澤委員：万が一に備え、日頃からの告知・掲示。そして、避難訓練の実施は必要と感じる。在校生は勿論、保護者に対しても避難経路や避難訓練の実施有無は共有しても良いと感じる。検討頂きたい。
國島委員：取り組まれている様子から、引き続き防犯・安全管理の実施を継続頂きたい。
小栗委員：現場でもお客様がいる想定で、本格的に実施していることもあり、避難意識は高まる傾向にあると感じている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

愛知県や愛知県専修学校各種学校業界等に沿って適切に行っているため、特に大きな課題はない。引き続き、高校側に対して学校教育に理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただくよう努める。なお、定員充足による募集停止時の対応は慎重に進める必要があると感じる。

② 今後の改善方策

引き続き、AO入試や特待生入試等の入試方法について誤解を招かぬよう、説明・対応に努め、受験希望者の不利益にならないように説明をしていきたい。

募集定員状況のHPやSNSへの掲載とオープンキャンパスへの早い段階への告知を行っていきたい。

③ 特記事項

入学前のイメージと入学後のギャップを持たない情報伝達に務めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

小栗委員：募集活動は適切に行われていると感じる。引き続き規程に沿った募集活動を続けて頂きたい。

水澤委員：誤解を招くような募集活動は見られない。高校生にとって将来を左右する学校選びに是非協力頂きたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について理解・継続する必要がある。
時間外労働については、より一層改善する必要がある。

② 今後の改善方策

今後も継続して啓蒙活動を行っていきたい。
引き続き、有給休暇の取得やフレックス制度の積極的な実施を促していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

水澤委員：高校分野でもフレックス勤務や在宅ワークを推奨しているが、担任は学校にて生徒と関わり実務を行うため、難しい現状である。在校生に支障のない範囲で進めて頂きたい。

國島委員：コロナ禍に伴い、国の推奨する企業全体の7割は難しいが、各部ごとに実施はできているところもあると聞く。以前は代休を取ることができない社会だったが、現在は取れる状況であり働き方も多様化しているように思えるため、工夫できるところから実施してみてもどうかと感じる。

小栗委員：個人情報の取り扱い等は引き続き適切に対応するよう努めて頂きたい。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

新型コロナウイルス感染症拡大により中止されたことが数多くあるが、地域貢献活動の目的や教育効果を考えるとこれまで実施してきた活動（円頓寺での七夕まつり・マルシェなど）を始めとして、積極的参加する（促す）必要がある。

② 今後の改善方策

教務指導の向上を図るために、ビジネスマナー・コミュニケーション力・相手への思いやり、おもてなし対応等の一層教育指導を強化していきたい。

③ 特記事項

例年実施しているもの以外に、読売新聞主催のパラリンピック選手や身体に障害を持つ方のヘアメイクの依頼などもあり、毎年、数回ではあるが新しい社会貢献やボランティア活動にも参加をしている。ボランティア活動の中で、生徒が地域の方などと接し、普段の授業では体験することのできない、技術以外の学びを修得できている。また、参加後には地域の方や、関わってくださった企業様より好評の声や、生徒への良い印象評価をいただいております。教務と関連するところもあるため、今後もボランティア等への参加を積極的に行っていきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

國島委員：コロナ禍で実施機会が少なくなっている現状はあるが、実施できることとなった場合、積極的に取り組まれ、在校生の学びの場となるよう、努めて頂きたい。

酒元委員：大型ショッピングモールとの産学連携が進んでいると聞く。普段の学びをアウトプットできる環境は恵まれていると感じる為、取り組みには非常に期待している。

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の入学は毎年数名入学してきているが、積極的な募集活動は行えていない。

② 今後の改善方策

昨今のニーズから、留学生が増加した場合を想定し支援体制作りを進めておきたい。また、留学生に対する進路(就職)斡旋の強化と情報収集は行っていきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小栗委員:留学生(受入)は少数であるようだが、今後はどうなるか分からない。受入体制・支援体制は整えておくようにしてもらいたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね問題ないと感じている。1年間を総合的に見ると新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、各種アンケート数値(生徒満足度)や退学率低減、資格検定取得率アップ、就職率維持など、結果が出せたと言える。これを継続していくためにも自己評価を基に細部までしっかりと点検・確認し、地域や業界から必要とされる学校(人材)になるために課題を把握し、学校運営をしていく必要がある。

2021 年度も引き続き、下記を取り組んでいくが、一層学園のミッション・ビジョン実現と美容分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向け取り組み、多くの方に理解・浸透が図れるよう努め、社会人として当たり前のことを当たり前に行えるよう「基本に忠実に、継続する」ことを念頭に普段の学校生活から「習慣化」させたい。その為に普段の学校生活の過ごし方を見直し、自己実現のため、学ぶ環境の風土・雰囲気作りを行っていきたい。

1. 主体性を育む教育(心の教育強化)・社会人育成の強化
2. 就職支援(在学・卒業後)、退学率の低減(広報活動と教務活動連動)・資格検定の合格率向上
3. 掃除・挨拶の徹底(基本的生活習慣)